令和８年１１月８日発行　鶴岡市温海庁舎地域づくり推進課

第三十一号

温海ふるさと通信

地域おこし協力隊を経て、温海に新たな場所を
～子どもから大人まで集えるコミュニティスペース作りへの挑戦～

突然ですが、４名、７名。この数は何だと思いますか？

実はこの数は、令和８年度のあつみ小学校、鼠ヶ関小学校の新１年生の児童数です。他の地域と同様に少子高齢化に歯止めのかからない温海地域において、令和８年３月にコミュニティスペースを開業した若きオーナーがいます。

温海地域の出身ではない彼女が、子どもの少ないこの地に移住し、なぜコミュニティスペースの開業に至ったのでしょうか。

今回の「ふるさと通信」は、イベントではなく「人」にスポットをあててお届けします。

プロフィール



鈴木　けい　さん

鶴岡市羽黒町出身。高校を卒業後、京都女子大学教育学部へ進学。卒業後、自治体職員を経て、京都市ユースサービス協会に勤務。令和５年５月に地域おこし協力隊（※）として温海地域にＵターン移住。任期中は、温海地域の中学生の学習環境を充実させる事業などに携わる。令和８年３月の任期満了と同時にコミュニティスペース「トーチてらす」をオープン。「明かりを灯す、未来を照らす。」という願いが込められている。

※都市部から移住し、地方自治体から委嘱を受けて地域の活性化や生活支援活動を行いながら、地域への定住を目指す総務省の制度。

質問　地域おこし協力隊に応募され、温海地域に移住したきっかけを教えてください。

鈴木　元々は羽黒出身で、京都で学校以外の場所での若者支援や学習支援の仕事に携わっていました。
地元に戻るタイミングを探していた際、たまたま募集を見つけたのがきっかけです。
正直なところ、最初は「温海だから」という理由ではなく、京都でやってきた大好きな支援活動を地元でも続けたいという思いが先行していました。温海地域も名前を知っている程度で、１、２回しか訪れたことがない未知の土地だったのです。しかし、やりたい活動内容が合致していたため応募を決意しました。

質問　３年間の協力隊活動の中で、特に心に残っている出来事はありますか？

鈴木　活動では小中学生の勉強サポートや放課後の居場所作り（未来塾など）を中心に、各集落を巡ったり温海ふれあいセンターで地域の方々と交流したりしてきました。
特に嬉しかったのは、開設した場所に昔関わった生徒が訪ねてきてくれたことです。協力隊１年目の学習支援で出会った当時中学３年生の子が、高校を経て就職が決まった際、「お世話になったから報告したくて」と訪ねてきてくれました。日々気にかけながら関わっていたことが、何年も経ってから確かな繋がりとして結実したことを実感し、深く心に残っています。

質問　任期終了後に開設されたコミュニティスペースは、どのような場所を目指していますか？

鈴木　子どもから大人まで、１人でもふらっと立ち寄って勉強や好きな過ごし方ができる自由な場所です。温海地域は集落ごとの繋がりが非常に強い地域ですが、集落や世代を超えた横の繋がりが生まれれば、さらに面白い地域になると感じていました。特定の年代や人に限らず誰でも集えるハブとなり、ここから新しい活動や面白い繋がりが生まれる起点にしたいと考えています。

質問　今後の夢や、首都圏などにいらっしゃるふるさと温海会員の皆様へのメッセージをお願いします。

鈴木　温海地域には魅力的な人々がたくさんおり、私自身もその一人として長く暮らし、お世話になった地域へ恩返しをしていきたいです。今利用している子どもたちが大人になり、また違う形でこの場所を使ってくれるような循環が生まれたら嬉しいですね。また、首都圏など遠方にいらっしゃる会員の方や地元出身の方々が帰省された際にも、気軽に集まれる場所として活用していただきたいです。同窓会と思い出話の場としてぜひお立ち寄りいただき、皆様のお話を聞かせていただければ幸いです。

コミュニティスペース
「トーチてらす」ＨＰはこちら▼

帰省した際は、
お気軽にお立ち寄り下さい！



「トーチてらす」の前で（鈴木さん）



世代間交流の場 どうぞ

元鶴岡市協力隊員・鈴木さん

温海の空き家改装、開設

使い方は自由 ／ にぎわい拠点にも

鶴岡市温海地域の地域おこし協力隊として、子どもの学習支援に取り組んできた鈴木けいさん（34）＝同市温海＝が、同地域にコミュニティースペース「トーチてらす」をオープンした。今年3月末まで協力隊として培った経験を生かし、幅広い世代が交流できる空間づくりに取り組んでいる。

鈴木さんは岡市羽黒地域出身で鶴岡北高を卒業後、と、31歳の時に協力隊として進学を機に京都府に移住し、て温海地域にUターン。地域の子ども・若者の自主活動を支援するNPO法人などで勤務した経験を地元で生かそうの選挙に3年間携わり、子どもたちと交流する中でコミュニティスペースを開くアイデアが固まったという。地域内には既に図書館の自習室やレンタルスペースはあるが、子どもたちが違う世代と関わったり、自主的に学んだりできる場所にしようと、JR温海駅前の空き家を改装し、今年3月30日にオープンした。

トーチてらすの広さは約56平方で、作業スペースや貸し切りの会議室を備える。使い方は学習や仕事、雑談、食事など自由。オープン後の1カ月余りは、地域のお祭りに合わせた餅つき大会などを開き、にぎわいづくりの拠点としても活用してきた。鈴木さんは「使い道は限定せず、利用者とともに柔軟に考えていきたい」と話す。

作業スペースの利用料は1人300円で、高校生以下無料。アップライトピアノも設置してあり、音楽の教員を許可を持つ鈴木さんによるミニレッスンも受講できる。

営業日など詳細はトーチてらすの公式インスタグラム（@toch_terasu）で。問い合わせはダイレクトメッセージ（DM）で受け付ける。（渡辺杏佳）

元鶴岡市地域おこし協力隊の鈴木けいさんが同市温海地域にオープンした「トーチてらす」＝同市温海

鶴岡市公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルはこちら▼

「鶴岡市役所６０秒広報室」などのショート動画を配信中です！ぜひＱＲコードからご覧ください

山形新聞２０２６年５月２３日

【発行】　〒９９９-７２０５　山形県鶴岡市温海戊５７７－１　鶴岡市温海庁舎地域づくり推進課
ＴＥＬ　０２３５-４３-４６１１　メール somu-at@city.tsuruoka.yamagata.jp